

いちき串木野市地域学校協働活動

# 学校応援団だより

～できることを できるときに できるところから～ No. 4-14(210)

＝みんなで支える学校 みんなで育てる学校＝ 令和5年3月20日

いちき串木野市地域学校協働活動事業本部

琴、和楽器の微細な音色が教室に響きました。日本の伝統的な楽器、琴、太鼓、三味線、つづみ 鼓、ひょうしき 笛、拍子木、すりがね、りんについて2名のボランティアの方に教えて頂き、演奏しました。今回は、旭小での琴、串木野西中での和楽器演奏を紹介します。

琴の学習支援：旭小学校では、生田流師範の梅北玲子さんに琴を指導して頂きました。1月16日に5年生（5名）、6年生（3名）が、2月22日に3年生（4名）、4年生（7名）が琴を練習しました。

梅北さんから、挨拶があり、保育園の先生であることや、琴は趣味で始められたこと、誰でも弾けるようになることが紹介されました。子どもたちは、最初、緊張していましたが、この挨拶でリラックスして、練習ができました。

また、琴の構造について説明があり、桐の木をくりぬいたもので13本の弦があること、弾くときは指に爪をはめて弾くこと等の紹介がありました。また、弦は1から13番までのマークが付けられ、楽譜は縦によむとのことでした。

「さくらさくら」を練習しましたが、3、4年生は、指の運びや弾くときの姿勢などがややぎこちないでした。しかし、七、七、八などの音階を言い合いながら練習し、ほぼ全員が弾けるようになりました。5、6年生も「さくらさくら」を代わりばんこに練習し、最後は全員が弾けるようになりました。弾き終わると「やったー、やったー」とか「ブラボー」の歓声が上がりました。

締めくくりは、梅北さんが左手も使い、「さくらさくら」を演奏してくださいました。寒い冬の日でしたが、旭小学校に優美なほっこりとしたメロディーが響きました。



**和楽器の学習支援：**串木野西中では、和楽器演奏を「薩摩芸事」の普及活動をされている住吉啓示（小系）さんに指導して頂きました。

2月20日、住吉さんの軽妙なトークとユーモアで1年生（41名）、2年生（35名）が、どんどん和楽器の世界に引き込まれていきました。

最初、住吉さんから、三味線等について説明がありました。

いちき串木野市は昔から、華やかな宴会が盛んで、花見、お祝い等の宴会で必ず「太鼓三味線」（てこしゃんせん）を用い、盛り上げていたとのこと。このため、三味線をなりわい生業とした弾き手が多く、各地で三味線文化が栄えたそうです。しかし、カラオケの出現で、三味線は衰退していったとのこと。

三味線を用いる鹿児島の代表的な民謡として「串木野さのさ」があります。もともと串木野の漁師が長崎五島へ漁に行き、そこで歌われてきた「五島さのさ」を編曲したものとのこと。

また、こきゅう琴、胡弓、つり太鼓、締め太鼓、鼓、すりかね、ウグイス笛、千鳥笛、りんの歴史や演奏方法、使う場面などが紹介されました。鼓は演奏ができるまでに8年ぐらひはかかるとのことでした。校長先生も見学に来られ、自ら鼓を手に取り、音を出す練習をされました。

練習は「おはら節」を合奏しました。三味線（住吉さん）、太鼓、鼓、すりかねは生徒が担当することになりました。まず、音の出し方を、全員で「チャカチャン かなチャカチャン スットントン」「スットン スットン スットントン」と言いながら奏でました。本番は、リズム感ある人、音感のいい人、声の大きい人、3人が選ばれ、楽器を持ち演奏しました。ただし、鼓は音を出すのが難しいので、大きな声で「ポン、ポン」と言うことになりました。推薦された3人の生徒は、いやがらずに素直に前に出て、演奏しました。

初めての演奏でしたが、とっても楽しく演奏ができました。これも、ひとえに住吉さん独特の雰囲気作りと指導の「たまもの」と思われました。

最後に、住吉さんから、「和楽器演奏は、もう経験することはないかも知れませんが、今後、皆さんは海外に出ていく機会が増えます。この時、日本人のプライドを持ち、自信を持って日本の文化を外国の人に伝えて欲しいです。これが、海外の人とうまく付き合う最大のコツだと思います。」と、印象深い言葉で締めくくられました。

